



姿勢のゆがみが気になったら受診を 成長期にみる側弯症



正常な背骨(脊柱)は頸椎、胸椎、腰椎から構成され、正面から見るとまっすぐですが、側面から見ると頸椎前弯、胸椎後弯、腰椎前弯と軽いS字状のカーブを描きます。側弯とは正面から背骨を見たときのゆがみ、変形のことです。

脊柱側弯の原因はいくつもあり、多くの分類があります。が、今回は成長期に発生する特発性側弯についてご紹介します。特発性側弯とは原因が不明で、成長期に出現する可能性が最も高い側弯です。ふだんの姿勢で骨盤や肩のラインに左右差がある場合には側弯を疑いますが、単なる姿勢異常の場合もあります。上半身裸となり背中側から観察するとゆがみがわかりやすく、また前かがみになって肋骨の高さや腰の筋肉の高さに左右差があると側弯の可能性が高くなります。側弯が疑われれば専門医療機関でのレントゲン撮影で診断を確定します。

軽度の側弯の場合には特に治療は行わず、定期的なレントゲン検査で変形の進行をチェックします。変形が進行すると装具療法が必要となり、さらに進行すると胸部も変形し心臓や肺に負担がかかるため、側弯矯正手術が必要になることもあります。背骨は短期間で身長が伸びる時期(男子は中学から高校、女子は小学高学年から中学)に大きくゆがむ傾向があり、身長が伸びなくなれば変形の進行は減速します。

本章については、学校健診でも積極的に取り組まれています。早期診断による治療が大切ですので、側弯が疑われる場合にはまず専門医療機関への受診をお勧めします。